

会議録

会議名	第2回 第2期はちおうじ学園都市ビジョン検討会	
日時	令和5年(2023年)7月28日(金) 午後5時～6時30分	
場所	八王子市学園都市センター11F 第1ギャラリーホール	
出席者氏名	参加者	熊澤 義之氏、古本 泰之氏、河井 晋平氏、杉原 明氏、武地 紫氏、石谷 結依氏、小野 桂一氏、木村 美紀子氏、古瀬 智之氏、高橋 今日子氏
	説明者	南部学園都市文化課長
	事務局	小山市民活動推進部長、横瀬主査、池田主任、落合主事
欠席者氏名	豊嶋 信一氏、新 達也氏、有田 進治氏	
議題	(1)施策の体系(案) (2)骨子案(素案たたき台)	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	-	
傍聴人の数	「なし」	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 骨子案(素案たたき台) ・ 資料2 施策の体系(案) ・ 資料3 アンケート調査結果 速報 ・ 資料4 ヒアリング内容まとめ ・ 資料5 (2次公募)第2期はちおうじ学園都市ビジョン表紙募集要項 	

議題(1) 施策の体系(案)について

【事務局】前回の検討会での参加者の皆様のご意見や、大学等、大学生、小学校・中学校・高等学校、企業を対象に実施したアンケートの調査結果、市民団体へのヒアリングなどを踏まえ、事務局にて「第2期学園都市ビジョン」(以下「2期」という。)の施策の体系(案)を作成した。次回検討会では最終案を提示する予定。

「第1期学園都市ビジョン」(以下「1期」という。)からの変更点として、「基本方針」は取組の類型を指したものに近かったため、表現を「基本施策」に変更した。また、「重点取組」は施策の方向性に対して順位付けをしていないため、「2030に目指す姿」とし、「取組例」は「主な取組」として、方向性ごとに取組として主に想定される内容をまとめた。

なお、「2030に目指す姿」については、八王子市の基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」や、子育て、産業などの分野別計画で掲げられた八王子市の目指す姿を踏まえたうえで、アンケート調査から浮かび上がったそれぞれの主体の目指す姿を加味して、位置づけた。

施策の体系(案)をご覧になられた中で何かお気づきの点があればおうかがいしたい。

【河井氏】全体として、2期は何を重視し、1期からどこ部分を変更したのかという議論が大事だと思う。たとえば、共創といったキーワードは昨今、特に重要になっている。また、1期があるうえでの2期の計画なので、1期の取組の進捗を現状分析したうえで、2期の取組をどう変えたか見せるほうが説得力がある。各論としては、少子化が進む中、基本施策5「生活環境支援」において、大学等の授業料の無償化や減免を国に要望することを考えてもよいかもしれない。

【事務局】2期は、八王子にキャンパスがあつてよかったと大学等や関わる市民の皆さんに感じてもらうことを重視している。よかったという思いがあるうえで、市民や地域が大学と連携する気持ちが高まっていくと思われる。また、八王子市の基本構想・基本計画である「八王子未来デザイン 2040」では、住み続けるまちをよりよくするための2つのエンジンとして「共創」と「地域自治」を掲げており、2期でも重要なキーワードとして捉えている。

1期から2期につなげていくことを踏まえた現状分析については、資料1「骨子案」に掲載予定である。ご指摘いただいたとおり、1期から2期でどんな課題が残り、どんな点を変更したのかを明記することで、流れがわかりやすいものになると考えている。

最後にご提案いただいた大学等の授業料無償化、減免については、2期に掲載するかは検討が必要だと考える。

【河井氏】共創の観点、これからの市と大学、大学と大学の関わり方を考えるうえでも大事なキーワードだと思う。ゼロカーボンシティなどの課題を個々の団体だけで対応するのは困難。各団体が連携し、知恵を共有して共創するという視点が大切だと思う。

【古瀬氏】地域で課題を抱えている人をキャッチできる仕組みがあるとよい。実際に取り組む課題が漠然としていると、大学側のシーズと課題を抱えている人がかみ合わず、社会実装しないなど、展開していくことが困難になる。実際1期でも、課題と取組がかみ合わなかった事例があるのではないかと。2期では、課題の解決につながる窓口のような具体的な取組を挙げておくのもよいかもしれない。

【事務局】課題を抱えている人と解決してくれそうな人をいかにつなげていくかという視点は重要である。2期の施策の方向性では、課題を抱えている人と解決できであろう場のつながりづくりにも重きを置いていく。なお、学園都市ビジョンにおいては施策の方向性やおおまかな取組の方向性を掲載するにとどめ、具体的な取組については計画年度に、掲載した方向性をもとに実施していくという建付けを考えている。

【杉原氏】1期の振り返りは大事。大学等が八王子にキャンパスを置いてよかったと思えるのはどういう状態かを考えると、大学等の定員数が維持続けられている状態ではないか。学生数は今後の学園都市づくりのひとつの指標になると思う。現状、学生数を増やすことは難しいが、予想より減っているのか、施策が有効に効いているのか、確認する物差しとして活用できるのではないかと。

また、1期策定時になかった2期の特色として、①少子化の加速、②生涯学習への対応がある。こうした現状分析を共有することで、効果的な施策をどう打っていけばいいのかという議論ができる。

【事務局】計画策定のうえで指標を据えるのは大事である。仰るとおり、数値の変化を追うことで状況を的確に捉えることができる。2期の指標については9月の検討会で皆様にお示しできればと考えている。

【古本氏】基本施策2「産学公連携支援」で、「公」はどんな役割を果たすのか。また、基本施策4

「学生の就職支援」において、卒業後の学生の市内定住の取組については、大学等との連携を視野に入れたほうがよい。

【事務局】産学公連携支援における公の役割については次回検討会までに整理する。また、卒業後の学生の市内定住については、相模原市・町田市・八王子市の合同調査において、学生の定住が進まない理由として、市内企業を知らないなどの分析結果が出ている。その意味でも、大学等との連携は重要だと考える。

【古本氏】基本施策7「生涯学習推進」について、リスキリングをしたいひとに向けて、大学等と市で再教育の場づくりをするということを検討したほうがよい。日本のように一度大学を卒業した後、再度入学して学び直す人が多くない国では、人材育成は課題のひとつとなる。新しい業務にあたる中でのスキルの獲得をどのようにするのか。企業とリスキリングについて検討していくことを2期で明示してもよいのではないかと。

【古瀬氏】公的な機関として、退職や転職などをしたひとをリスキリングして再就職させるという場があってもよいのではないかと。

【杉原氏】リスキリングのプログラムは大学等が単独でやるより複数の大学で実施したほうがよい。主に社会人を対象に学習プログラムの修了者に履修証明書を発行する「履修証明プログラム」は、現状の仕組みではコンソーシアムや八王子が主体になるのは無理である。たとえば、コンソーシアムが主体となり、各校がそれぞれの分野に特化したプログラムを担当し、履修証明書を発行できるようになるなどの仕組みを国に特例的な措置を求めてもよいかもしれない。

【河井氏】再就職支援としてのリスキリングだと、職業能力開発センターなどの機関が実施しているが、他方で大学等の高等教育機関が提供するリスキリングも求められているのではないかと。大学等が提供するリスキリングに市としてどう関わるのか、たとえば各校のプログラムを取りまとめて紹介するなど、何らかの役割を果たすことも考えてよいのではないかと。

【事務局】八王子には学園都市大学(いちょう塾)という学びの環境がすでにある。いちょう塾で履修証明書の発行は制度的に難しいと思うが、たとえばリスキリングの第一歩として、いちょう塾の講座を受講いただき、自身の目的と合致していそうなら大学等で学びを深めるといった活用の仕方もあるのではないかと。また、杉原氏からご意見をいただいた履修証明書に関する特例措置は、国や都へ予算要望の際に意見として出していくことを考えてもよいかもしれない。

【古瀬氏】職業訓練校などでは、再就職に向けたリスキリングについて潜在的なニーズがあると思うが、対応できていない状況にあるのではないかと。何人にリスキリングするなどの指標があってもよいかもしれない。

【河井氏】職業訓練校でもリスキリングの重要性はあると思うが、今社会で話題になっているリスキリングのイメージとは異なる。大学等が提供するリスキリングのプログラムを考えると、30～40代が業務上のスキルアップをめざす産業技術大学院大学の内容が近い。

【小野氏】商工会議所としては、これまでもwebサイトでの掲載や冊子の配布などで企業の情報発信を学生に行っているが、なかなか学生に届かない。発信の在り方自体を考えていかないといけない。中小企業の担当者と話していると、人手不足が深刻であり、外国人に頼らざるを得ない状況にある。商工会議所では、市内の日本語学校に学びに来る外国人の中で、就職を目指す学生と市内企業のマッチングをはじめた。たとえば、大学の留学生と市内企業をマッチングできれば、雇用に貢献できる。2期でも、雇用についてもっと重点的にアピールできるとよいのではないかと。

- 【事務局】留学生支援については、次回検討会までに考え方を整理する。また、2 期の対象が大学・短大・高专であるので、日本語学校自体は対象外だが、パートナーという位置づけはできる。
- 【古本氏】基本施策をクロスオーバーする問題は書きぶりが難しい。
- 【事務局】複数の基本施策に掲載し、「再掲」と表記する書きぶりはある。
- 【木村氏】基本施策4の「学生の就職支援」について、学園都市文化ふれあい財団では、学生のインターンシップを受け入れている。学生の予定と財団側の予定を調整し、よりよい体験ができるよう調整するインターンシップのコーディネーターがいてもよいのではないかと。また、留学生が身近にいることを意識したビジョンの内容が大事。
- 【事務局】コーディネーターの重要性は認識している。2 期に掲載するかは検討としたい。
- 【高橋氏】放課後子ども教室や地域の子育て関連の活動をしている。地域活動にあたっては、学生や大学等の負担が大きい。放課後子ども教室の学生ボランティアでは謝礼を用意している。活動に関わったことで何か今後につながるものがあると思う。南大沢中学校区の地域づくりにも関わっているが、活動を一括して見るコーディネーターがいないことや一括した情報収集の場がないことが課題になっている。また、子育てを終えた後など、ライフステージが変わるときに必要とされるリカレント教育が、八王子の中でできるとよいと思う。
- 【事務局】高橋氏には市民活動団体のヒアリングでも話を聞かせていただいた。その際にも感じたが、学生や活動団体をマッチングするひとや場の存在が大事である。市民それぞれが生涯に渡って、目的にかなった学びができる環境を整えていくことが必要だと考える。
- 【石谷氏】基本施策1「地域連携支援」と基本施策3「学生活動支援」について、学生個人と地域のつながりだけでなく、学生団体と地域をつなげていく仕組みも大事だと思う。
- 【古本氏】日本の人口減少の中で、留学生を獲得することに力を入れる大学も増えている。ただし世界との戦いになるため、大学等に行くことのメリットについても、教育プログラムだけでなく、立地する地域や生活環境を含めた利点を押し出さなくてはいけない。八王子の大学でも、留学生施策に積極的な大学等もあるので、参考に意見を聞いてみてもよいかもしれない。

議題(2) 骨子案(素案たたき台)について

- 【事務局】資料1骨子案について、記載項目について意見があればうかがいたい。なお、1 期では基本方針7つに加え、「学園都市ブランドの強化」という共通方針があったのだが、すべての施策が内包する内容であるため、2 期においては共通方針としての位置づけをやめ、基本施策7つの構成とする予定である。
- 【武地氏】骨子案はどういった場面で使うのか。
- 【事務局】最後は骨子案をもとに冊子になる。骨子案の1章～3章が計画策定の背景や趣旨として冒頭に入り、4章で各基本施策の内容に触れていく。
- 【河井氏】アウトプット指標、アウトカム指標は維持するのか。
- 【事務局】「八王子未来デザイン 2040」でも学園都市づくりの指標として掲載しているので、引き続き使っていくことになる。
- 【古本氏】施策の展開と指標がかみ合っているかは検討の際、注意が必要だ。
- 【熊澤氏】計画を策定したあとは、学生を含めてどのように浸透させていくのか。

【事務局】計画策定後は、計画で掲げる課題を関係者に共有していかななくては意味がない。大学等に協力してもらい、各校のサイトに置いてもらって閲覧できるようにするなど、学生にも届く周知方法を検討していきたい。また、実際に事業を打つときにあわせて PR していけたらと考えている。

【杉原氏】八王子は大学コンソーシアムがあるのが強み。2 期で掲げた基本施策を推進するために、大学コンソーシアム八王子の活動に結びつけて実施していくのもよいかもしれない。

【事務局】大学コンソーシアム八王子は令和 6 年度・7 年度に中長期計画を策定していく。その際、2 期で掲げた内容を反映していくことを考えている。

その他

(1) 2次公募の実施

- ・表紙デザインの公募は、締切までに条件を満たす申込がなかったため、2 次公募を実施する。
- ・2 次公募実施にあたっての変更点
 - ① 対象に、「コンソ加盟校以外に通う市内在住学生」を追加。
 - ② 前はコンソを通じてのみの周知だったが、今回は市の広報媒体やコンペの情報サイトにも掲載する。

(2) 表紙デザインの審査

- ・予定通り検討会メンバーに投票いただく形を予定している。
- ・2 次公募の締切(9/15)が第 3 回検討会(9/12)後になるため、メールでの投票と投票結果への意見集約を行う予定。
- ・検討会メンバーの皆様にも周知に協力いただきたい。